

コミュニケーション能力養成のための イディオム学習システム

進藤 三雄

1. はじめに

イディオム（コロケーションを含む）は、表現能力の拡大を可能にするだけでなく、テキスト構成上重要な働きをする。例えば、文頭における *As a matter of fact, ~*、*In a sense, ~*、*That is, ~*、等の表現は自然な談話を実現するための接続機能を有し、*in that ~*、*to such an extent that ~*、*in terms of ~*、などは文中において論理的なテキストを構成する際の骨組みとしても重要である。このようなイディオムに習熟することは、円滑な英語によるコミュニケーション活動にとって欠かすことのできないものであり、特にプレゼンテーションや電子メールの作成といった発信型コミュニケーション活動において重要な働きをする。

語彙指導のうちでもイディオム指導は一般に単語ほど積極的には取り扱われておらず、長文読解やリスニング学習の教材に出現する都度おぼえていくといった方法が一般的である。語彙学習に関する研究も単語の習得に関するものが大半を占め、大学英語教育学会（2003）で作成した語彙リスト *JACET 8000* にもイディオムに関する記載は特に含まれていない。しかし実際問題、大学に入学してくる学生はある程度イディオムの知識は持っているが、それは認識レベルの知識にとどまり、実際に会話や手紙文などで自身を持って使えるレベル（運用レベル）までには習熟していないのが現実である。以上のことを考えると、現在、実践的コミュニケーション活動に有効なイディオムのための語彙リストの作成と、その効果的な指導法が求められていると言えよう。

本研究では、コンピュータによる語彙学習システム（進藤、2002）で取り扱った基本単語700に、更に700のイディオムを追加する形で新入生の語彙指導を徹底させ、大学教育の早い段階で英語コミュニケーションに必要な基本的語彙運用能力を向上させる取り組みとその教育効果を考察する。

2. イディオムとコロケーション

2.1 イディオムとコロケーションの定義

イディオムの定義は Cruse (1986: 37) によると、「それを構成する複数要素が、そのイディオム以外で使われた時に表す本来の意味からは予測できない、あるまとまった意味を表す表現形式」ということになる。また、「イディオムは他の語の進入や各構成要素の語順の入れ替えを嫌う」といった特徴を持つ。例えば「死ぬ」という意味の口語表現である *kick the bucket* を、*kick the pail* と構成要素の一部を他のものに置き換えることはできないし、*hit the bucket with one's foot* や *kick the large bucket* などと余分な語や句を挿入することもイディオム本来の意味を失う結果となる。同時に、*kick the bucket* は “The bucket was kicked.” のように受動態として使うことは許されないし、“It was the bucket that Ed kicked.” のように分裂文にすることもできない (Aitchison, 1994; Keith, 2001)。但し、イディオムの中でもこれらの制限に関してある程度の違いがあるようで、*pull one's leg* 「からかう」は、“What John did was pull his sister's leg.” ではイディオムとしての読みは可能だが、“What John pulled was his sister's leg.” のような文はもはやイディオムとしては理解されない (Cruse, 1986: 38)。

一方、コロケーションは慣習的に共起しやすい一連の語のつながりを指し、*fine weather, torrential rain, light drizzle, high winds* などのように、各構成要素本来の表す意味がそのまま全体の意味に反映される (Cruse, 1986: 40)。つまりコロケーションはイディオムほどには構成要素が固定化していないが、共起する語同士は意味的結束性を有し、ある程度共起する相手の語を選ぶ傾向にあると言える。例えば日本語では「強い雨」、「強い風」と、雨と風に対して「強い」という形容詞が使えるが、英語では *heavy rain, strong wind* となり、*strong rain, heavy wind* とはならない。このように日本人英語学習者は日英の発想の違いからコロ

ケーションの過ちを犯す場合があるので指導する場合には注意が必要である。コロケーションのうち、関連した語と語がより強固に結びつき、次第に語順も固定化されたものが成句や連語と呼ばれるもので、それらのいくつかはイディオムとオーバーラップする (Aichison, 1994: 89)。また Halliday & Hasan (1976) は、語彙体系には近接性の度合いが見られるため、ある相対的蓋然性のある語彙項目が隣接した文で生起すれば、おしなべて結束性を生み出す働きを持つと述べ、コロケーションはセンテンスを超えたテキスト全体の結束性を高めるのに大いに関与していると論じている。

コロケーションをさらに下位分類すると、語彙的コロケーション (lexical collocation) と文法的コロケーション (grammatical collocation) に分けることができる (林, 2002: 270)。語彙的コロケーションとは、ある名詞を形容詞が修飾する場合は限られたものの中から選択されるといったように、比較的弱い単語同士の結びつきであり、文法的コロケーションは、be angry at や be afraid of などのように、名詞・動詞・形容詞が他の語句や節と結合しながら文法・文型と密接に関係するものを指す。本開発ソフトでは、コロケーションを意識的に学習することによって表現活動に幅が出ること、また「単語からかたまりへ」という理解や表現に役立つと考え、イディオム以外にも文法的コロケーション (一般に句動詞と言われているものを含む) を積極的に取り入れた。

2.2 イディオムの運用

日本の英語教育では、書き言葉を通して改まった表現を中心にして教える傾向があるため、表現活動においてどうしてもよそ行きの、いわゆる big word と呼ばれる長くて重々しい語が好まれ、簡単な語が使いこなせない (堀内, 2002) といった弊害が生じる。表 1 は現代映画60作品 (122万語) に現れるイディオム (コロケーションを含む) とそれとほぼ同じ意味を表す単語の出現数を比較したものであるが、これらに限って言えば、英米人は口語では単語よりイディオムの方を好んで使用する傾向があることがわかる。

表1 映画におけるイディオムの使用頻度例

イディオム	出現回数	単語	出現回数
set up	34	establish	17
in case	24	lest	1
catch up with	16	overtake	10
put out	12	extinguish	6
in spite of	10	despite	37
throw up	10	vomit	5
look down on	9	despise	0
throw away	6	discard	5
off the record	5	unofficially	1
take part in	1	participate	5

但し、throw away と discard は使用頻度に差は見られず、take part と participate の間では若干 participate の使用例の方が好まれる傾向にあった。in spite of と despite を比較すると despite の発生率の方がかなり多いが、これは田島 (1998: 95-107) によれば、経済性の観点から口語 (特に米口語) では短い表現が優勢になるのだと説明されている。また堀内 (*ibid*: 25) は、「病気にかかる」の suffer from は堅く、口語では get や have を用いるのが普通であると指摘しているように、口語表現では必ずしもイディオムが好まれるわけではないことも指導上の注意が必要であろう。

自然なコミュニケーションを実現するためにはテキストにおける結束関係が大きく関与しているが、Halliday & Hasan (1976) はその関係要因として、指示・代用・省略・接続の4つを挙げている。4番目の接続に関して、ハリデー (2001: 509-518) はその意味機能を Elaboration (敷衍)、Extension (拡張)、Enhancement (増強) の3つに分類している。また、このような接続表現は、外界についてのわれわれの経験描写という意味関係を表す (外的接続) 以外に、話し手の発話の役割や修辭的伝達回路の選択、話し手の態度、その判断などの描写という意味関係を表す (内的接続) ものに別けられる。前者はものごとを理論的に表

現する意味で、後者は場に応じた的確な表現を産出するといった語用論的な意味において英語コミュニケーションにとって重要な機能と言える。

英語ではこのような接続関係を表現するために、一般に副詞や前置詞などの他に、本稿ではイディオムと呼んでいる前置詞句が使われる。以下に前置詞句を中心とする接続表現を意味機能別にまとめる。

[Elaboration]（敷衍）

換言：in other words, to put it another way

例示：for example, for instance

補正：at least, or rather

転換：by the way

棄却：in any case, in either case

特化：in particular

再開：as I was saying

要約：in short, to sum up, in conclusion

確認：as a matter of fact, in fact

[Extension]（拡張）

付加：in addition

逆説：on the other hand

変移：on the contrary, apart from that

[Enhancement]（増強）

時間・空間：at the same time, in the end, at this moment, on another occasion, at last

様態：in the same manner

結果：in consequence, as a result

理由・目的：on account of this, for that purpose, because of this

条件：in that case, if not, in such an event

譲歩：all the same, despite this

事柄：in this respect, in this regard, with reference to this

ハリデー(2001: 509-518)、一部筆者加筆修正

3. 語彙学習

3.1 理想的な学習形態

Goodman (1965) も、単語は単独で示される時よりも文脈の中で示される方がより多くの単語を認知することができるように述べているように、本来語彙は、リーディングやリスニングを通して付随的に学ぶべきものであるという考え方がある。これは間接的語彙学習と呼ばれるもので、実際のコンテキストの中で語彙を学んでいく学習スタイルである。これに対して、直接的語彙学習は語彙学習のための時間を特別に割いて直接的に行われるべきだとする考え方で、語彙学習を通しコロケーションなどの知識を拡充していくべきだという姿勢である。

林 (2002: 73) は「限られた時間でかなりの量の語彙を習得する必要がある学習の初期の段階では、学習者に時間的あるいは処理上の負担が大きいコンテキストによる学習に代わる効率的な学習法が求められる」と述べ、更に、「教室外でも絶えず英語にさらされているという学習環境が保障されていない状況では、語を個別に学習する方法も語彙の増強を図る方途になり得る」と短期間に大量の語を学習する方法として訳語方式による直接的語彙学習の可能性を肯定している。彼は Zimmerman (1997), Parbakht and Wesche (1997) らの研究を取り上げ、理想的な語彙学習の形態を次のようにまとめている。

1. 語彙学習に単一の「万能薬」はない。
2. 直接的な学習と間接的な学習を併用したほうがよい。
3. 直接的な学習では、語について多面的で豊富な知識を得るために、またできるだけ多くの語にふれるためにも、複数の練習を行うのがよい。
4. 間接的な学習では、学習する[した]語にふれる頻度を高めるために、リーディングの機会を増やしたほうがよい。 (林, 2002: 49)

筆者も間接的語彙学習が語彙を学ぶ上で自然な言語習得過程であることは否定しない。しかし現在の週1時間という限られた英語の授業だけでは、新入生に十分な語彙の習得は期待できないことも事実である。まして新学習指導要領

の実施で、中学・高校で学ぶべき語彙は3000語から2700語へと300語減っている状況の中では(島岡, 2002; 村田, 2002)、授業中の読解やリスニングだけでは十分とは言えない語彙指導を直接的語彙指導で補うことが、大学に入学してきた新入生に対する語彙指導の形態として現実的、且つ効果的な方法であると言える。

3.2 イディオム学習の必要性

日本人英語学習者がコミュニケーションにつまずく大きな原因のひとつに語彙知識の不足が挙げられる。Wilkins (1975) が、文法の知識がなければ少ししか意思を伝達できないのは確かだが、語彙の知識なしには何も伝達できないと述べているように、語彙力はコミュニケーション能力と密接に関わっている。特に英語は日本語と異なり、同じ表現の繰り返しはできるだけ避ける傾向にある(根岸, 2003) ため、様々に言い換え可能な語彙表現を増やすことは自然なコミュニケーションにとって重要である。前にも述べたようにイディオムは語彙知識の中でも文構成上重要な働きをするが、そこには日本人にはなじみの薄い前置詞や副詞が頻繁に使用されるため、学習者はなかなか自信を持って使いこなせないのが実情である。

日本人学習者がイディオムやコロケーションの使用を難しいと考えるもうひとつの理由に、それらが異なった文化や習慣を色濃く反映しているという点がある。確かに日本語と英語の発想が似ているもの、例えば out of the blue 「晴天のへきれき」、save/lose face 「面目を保つ/失う」、in the name of 「～の名の下に」、pull strings 「陰で糸を引く、コネを使う」、などもあるが、日本人の発想からは理解しがたいものもかなりある。学生に実施した語彙テストの中から、学習者が困難を感じるいくつかの原因を挙げてみる。

- 発想が日英で異なるもの: pull a long face 「しかめっ面をする」、Chin up! 「頑張れ」、show one's own colour 「尻尾を出す」、turn white 「(ショックで) 青くなる」、wet behind the ears 「尻が青い」など。
- 語順が日英で変わるもの: sooner or later 「遅かれ早かれ」、here and there 「あちこちに」など。

- 似たような表現があるもの：on time「時間どおりに」とin time「間に合って」の意味の違いに混乱を生じるなど。
- 冠詞や複数形の誤用によるもの：as a result を日本語の意味である「その結果として」に引きずられて as the result とする。in terms of を in term of にする。as regards と with regard to を混同して、as regard to としてしまう。in turn と by turns を混同して in turns とするなど。
- イギリス英語とアメリカ英語の違いによるもの：in the light of はイギリス英語では一般的であるがアメリカでは現在 the のない in light of の使用例が多くなっている（田島，1998：150）など使用者が混乱し、結果的に使用を避けてしまうなど。
- 複数の前置詞が選択可能なもの：複数の選択肢が可能なためかえって混乱する場合がある。例えば with regard to と in regard to、as for と as to などは両方可なるために、かえって使う段階になると自信が持てなくなり、結局両方使わなくなってしまうなど。
- 日本語の表現に引きずられるもの：have a barbecue (party)「バーベキューをする」を do barbecue としたり、kill oneself「自殺する」を do suicide としてしまう。日本語の「に」にひきずられ by accident「偶然に」を in accident としたり、as usual「いつものように」を in usual にする。または、in the long run「長い目で見れば」を in the long eye とするなど。
- 文法的知識の不足によるもの：on the other hand を on another hand としたり、look forward to の to を不定詞の to と間違えてしまうなど。

表2は大学1年生109人を対象にイディオム学習に関する調査を実施した結果である。「イディオムはコミュニケーション活動にとって大切か」という設問に対し、約93%の学生がその大切さを認めている。その理由として、「多くの熟語を知っていればコミュニケーションの幅が広がる」、あるいは、「自分の表現したいことを正確に表すことができる」といった回答が多かった。また、「単語と熟語のどちらに自信があるか」という問いには単語と答えた学生が63%で、熟語の14%を大きく上回っている。さらに「どちらが覚えるのに苦勞するか」という質問には、熟語の方と答えた学生が57%で単語の25%より多かった。学生

が単語より熟語を難しいと考える主な理由は、予想していた通り、「前置詞の選択が紛らわしい」を先頭に、「似ている表現が多い」、「表現が長い」などが挙げられた。このような学生のニーズや実態からも、より徹底したイディオム指導が望まれていると言える。

表2 イディオムに対する学習者の意識

熟語はコミュニケーションにとって大切ですか	非常に大切 47%	ある程度大切 46%	どちらとも言えない 4%	あまり大切ではない 4%	全く大切ではない 0%
単語と熟語はどちらに自信がありますか	単語に自信がある 22%	どちらかという単語 41%	どちらとも言えない 23%	どちらかという熟語 11%	熟語に自信がある 3%
単語と熟語ではどちらが覚えるのが大変ですか	単語の方が大変 15%	やや単語が大変 10%	どちらとも言えない 17%	やや熟語が大変 28%	熟語の方が大変 29%

4. システムの開発

4.1 本語彙システムの構成と改善点

今回増設したイディオム部門は、前回の単語学習用ソフトのフォーマットをほぼそのまま利用し作成した。構成は単語部門に合わせ全体を14課に分け、それぞれの課には5個の練習問題を用意し、各練習問題で10のイディオムが学習できる仕組みになっている。全体の構成を14課にした理由は、平常の英語授業（前期、後期各14回程度）と平行して語彙学習の状況を小テストなどでモニターする必要があったためと、単語ソフトと同じ構成にすることで、単語と熟語を同時に学習することを可能にするためである。

各練習問題の左側には、日本語とそのイディオムの一部単語が欠けたものが10個並んでいて、画面の右側にはその答えになる単語が不規則に並んでいる。学習者がマウスで正しい単語を選び、イディオムを完成させることができると、その組み合わせは画面上から消えていく。10問のうち2つ以上間違えると学習者は再度同じ問題を初めから練習することを強いられる。9割以上の正解が得られないと次の問題に進むことができないため、学習者は完全に理解できるまで

何度でも練習することができる。問題作成の際には、3.2で示された学習者の誤用パターンを念頭に置きながら、効率的な練習問題を作成するよう心掛けた。

以前の単語学習ソフトはまず英語を選んでから日本語を選ぶ形式であったが、今回の熟語学習ソフトでは、発信型コミュニケーション能力の開発を重視するという観点から、学習者にまず日本語を読んでもらい、それに相応する英熟語の一部不足している箇所を選択肢から選んで補う形式をとった。これは、前にも述べたように学習者に英語独特のコロケーションに注意を向けてもらい、結果的に日本語と英語の発想・表現の違いに気づいて欲しいと期待したからである。前回要望のあった音声面での改善は残念ながらハードディスクの制約のため十分できなかったが、一部画面を白黒からカラーするなどして学習者の興味を引くよう工夫を加えた。

4.2 語彙リストの作成

イディオムのリスト(巻末参照)は、手紙文、新聞、ニュース、映画、TOEIC/TOEFLなどの検定試験などを参考に、英語コミュニケーションに特に重要であると思われるものを700語選びデータベース化した。その際、一般にイディオムとしては考えられていない接続語句や、学習者が困難を感じるであろう英語独特の言い回しなども、コミュニケーション上重要なものであると判断した場合にはリストに加えた。表記方法に関しては、熟語は実際の文の中でどのように使われるか理解しておく必要があるため、例えば主語や目的語などを表すには日英とも、A、Bなどの記号を当て、場合によっては「人」や「物」の指定をして意味や語法の確認を容易にした。また節はSVの表記を使ったり、動詞の形を指定する場合には“to do”や“doing”等の表記を用いて語法上の説明を提示した。

Nation (1993) も、通常のコミュニケーションに必要な語彙サイズは5000であるが、そのうち最も頻度の高い2000~3000語をできるだけ早急に学習する必要があると主張しているように、語彙リストには特殊なイディオムは極力避け、基本的なものを多く採用するよう心掛けた。

5. 評価

5.1 アンケートによる評価

大学1年生を中心に本システムを使って毎週1課のペースで単語(50)と熟語(50)を学習してもらい、授業の始めにテストを実施した。10週が経過したところで、受講者109名からアンケート形式で評価を得た。表3が示すように、「非常に効果的」、「ある程度効果的」を合わせると、70%の学生が本ソフトによる語彙学習を肯定的に捉えている。

表3 コンピュータを使った語彙学習に対する感想

	非常に効果的	ある程度効果的	どちらとも言えない	あまり効果的ではない	全く効果的ではない	合計
人数	14	62	19	12	2	109
%	13%	57%	17%	11%	2%	100%

記述式のアンケートには肯定的な意見として次のような理由が挙げられた。

- ゲーム感覚で楽しい (16)
- 繰り返して学べて覚えやすい (14)
- 幅広い語彙を学習できる (5)
- 定期的に語彙学習ができる (5)
- 忘れていた語彙の復習になる (2)
- 短期間に集中的に語彙を学べる (1)
- 自分の力がすぐに評価されてやる気が出る (1) ()内は延べ人数

これらの理由は前回の単語学習ソフトの時に実施したアンケートとほとんど同じと考えてよいが、その中でも、「忘れかけていた語彙を復習するのにいい」や「自分だけでは取り扱えない幅広い語彙を学習できていい」といった意見は、CALLによる語彙学習が授業や学習者個人では十分取り扱えない語彙を学習できる点を評価しているものと言える。一方、否定的な意見は全体の13%であり、理由として次のようなものが挙げられた。

- CALL 教室へ行くのが面倒・CALL 教室以外で学習できない (11)
- 手で書かないと覚えにくい・綴りを覚えにくい (11)

- コンピュータが古い (4)
- 目が痛くなる (3)
- 毎週あると大変 (2)

現在のシステムは CALL 教室のみで学習できる方式をとっているため、毎週 CALL 教室に行くことに困難を感じている学生が多かった。また、CALL 教室へ行っても結局は紙に問題を書き写してテストのために家で覚えるといった学生が多く見受けられた。今後はソフトの中での学習履歴が残せるよう工夫したり、インターネットを使ってどこからでもアクセスできる学習環境の整備を図る必要がある。

否定的な意見と「どちらともいえない」を合わせると全体の30%となり、比較的高い数字となっている点が気になるところであるが、1クラス約40人を対象に、この学習形態を続けて欲しいか、やめて欲しいか○×形式で答えてもらったところ、81%の学生が現在の学習形態を続けて欲しいと望んでいることがわかった。このことは、語彙の学習は大変であるが必要なものであるという意識の表れであると理解して良いだろう。

5.2 検定試験への対応

筆者の勤務している熊本県立大学総合管理学部では1年生全員にTOEIC受験を義務付けている関係上、TOEICの中でイディオムがどの程度使われているのか調べておく必要がある。表4はTOEIC公式問題集1 (Chauncey Group International, 2000)と公式問題集2 (Chauncey Group International, 2002)に現れたイディオムの例と、本語彙ソフトがどの程度までそれに対応しているかを示したものである。また、表5は全体の対応率をまとめたものである。

TOEIC公式問題集に出現するイディオムの平均数は84で、本イディオム学習ソフトが対応する割合は約63%であった^{注1}。リスニング部門では、イディオムの一部の発音が設問中の語と紛らわしいものであったり、イディオムの正確な知識がないと間違いやすいものがある。文法・語彙部門でもイディオムそのものの知識を問う設問がいくつかあり、読解部門でも本文に含まれる単語をイディオムでパラフレーズさせる設問があった。

出現イディオム一覧を見てもわかるように、TOEIC に使われているイディオムは基本的なものがほとんどである。6割以上の対応率から、本語彙システムが TOEIC などの検定試験の対策としてもある程度機能するものと判断できる。

表4 TOEIC の問題に出現したイディオム (○印は本ソフト対応を示す)

[第1回テスト]

by hand	<input type="radio"/>	look forward to	<input type="radio"/>	from ~'s viewpoint
go out of business	<input type="radio"/>	take care of	<input type="radio"/>	put forward
<input type="radio"/> hang up	<input type="radio"/>	pull over	<input type="radio"/>	hear from
<input type="radio"/> turn on		as ~ as possible		in the event of
have yet to	<input type="radio"/>	in case	<input type="radio"/>	make up for
<input type="radio"/> go through	<input type="radio"/>	focus on	<input type="radio"/>	complain about
for sale		take order	<input type="radio"/>	take care
<input type="radio"/> clip out		go into business		be taken by surprise
<input type="radio"/> be out of order		live up to		on a regular basis
go away	<input type="radio"/>	pick up		file suit against
<input type="radio"/> take away	<input type="radio"/>	come out		at the preset time
reach for	<input type="radio"/>	work for	<input type="radio"/>	take advantage of
get out of		make a presentation	<input type="radio"/>	aim at
<input type="radio"/> be in a hurry		put up	<input type="radio"/>	deal with
<input type="radio"/> look after	<input type="radio"/>	at once	<input type="radio"/>	be satisfied with
so ~ as to do	<input type="radio"/>	due to	<input type="radio"/>	in view of
finish up	<input type="radio"/>	in honor of		be on strike
on hand	<input type="radio"/>	be concerned about	<input type="radio"/>	in response
in a minute		be liable for	<input type="radio"/>	lay off
<input type="radio"/> call off		beyond control	<input type="radio"/>	along with
<input type="radio"/> by the way	<input type="radio"/>	take place		at one's discretion
<input type="radio"/> on one's way to	<input type="radio"/>	prior to	<input type="radio"/>	turn down
<input type="radio"/> by mistake	<input type="radio"/>	be subject to	<input type="radio"/>	result in
<input type="radio"/> in time for	<input type="radio"/>	participate in	<input type="radio"/>	call for
be in luck	<input type="radio"/>	hand in	<input type="radio"/>	at one's disposal
<input type="radio"/> at a/one time		apply for		
<input type="radio"/> show around	<input type="radio"/>	in advance		

[第2回テスト]

<input type="radio"/> turn on		be on fire		be expected for
be parallel to	<input type="radio"/>	break down	<input type="radio"/>	be out of order
<input type="radio"/> take off	<input type="radio"/>	pick up	<input type="radio"/>	be in charge of
<input type="radio"/> be in progress	<input type="radio"/>	on time		by any chance
point at	<input type="radio"/>	work for	<input type="radio"/>	instead of

- | | | |
|--|---|---|
| <input type="radio"/> make it | <input type="radio"/> on strike | <input type="radio"/> under control |
| <input type="radio"/> wind up doing | <input type="radio"/> out of date | <input type="radio"/> be used to |
| <input type="radio"/> so far | <input type="radio"/> get away from | <input type="radio"/> relative to |
| <input type="radio"/> except for | <input type="radio"/> go out of control | <input type="radio"/> due to |
| <input type="radio"/> in time | <input type="radio"/> run into | <input type="radio"/> in the midst of |
| <input type="radio"/> in addition | <input type="radio"/> refer to | <input type="radio"/> hear from |
| <input type="radio"/> be about to | <input type="radio"/> hand out | <input type="radio"/> apologize for |
| <input type="radio"/> for certain | <input type="radio"/> after all | <input type="radio"/> level off |
| <input type="radio"/> take place | <input type="radio"/> focus on | <input type="radio"/> in the event of |
| <input type="radio"/> be concerned about | <input type="radio"/> be located in | <input type="radio"/> result in |
| <input type="radio"/> from now on | <input type="radio"/> quite a bit | <input type="radio"/> abide by |
| <input type="radio"/> get up to | <input type="radio"/> in orbit | <input type="radio"/> take place |
| <input type="radio"/> look forward to | <input type="radio"/> stir up | <input type="radio"/> on the spot |
| <input type="radio"/> in line | <input type="radio"/> turn into | <input type="radio"/> be liable for |
| <input type="radio"/> by mistake | <input type="radio"/> cut back | <input type="radio"/> provide ~ with |
| <input type="radio"/> figure out | <input type="radio"/> as long as | <input type="radio"/> as well as |
| <input type="radio"/> on a diet | <input type="radio"/> in effect | <input type="radio"/> for the purpose of |
| <input type="radio"/> drop off | <input type="radio"/> accuse A of B | <input type="radio"/> ranging from A to B |
| <input type="radio"/> make a reservation | <input type="radio"/> hand in | <input type="radio"/> be known for |
| <input type="radio"/> as long as | <input type="radio"/> lead to | <input type="radio"/> prior to |
| <input type="radio"/> in cash | <input type="radio"/> be subject to | <input type="radio"/> in the case of |
| <input type="radio"/> take out | <input type="radio"/> pass up | <input type="radio"/> be based on |
| <input type="radio"/> cater to | <input type="radio"/> regard for | <input type="radio"/> participate in |
| <input type="radio"/> set for | <input type="radio"/> participation in | <input type="radio"/> in addition to |

表5 TOEIC のイディオムへの本ソフト対応率

	第1回 TOEIC 問題	第2回 TOEIC 問題
出現イディオム数	79	88
ソフト対応数	49	55
対応率	62%	63%

5.3 学習時間

本語彙システムの利用に関しては、オリエンテーション時以外は基本的に各学生が自主的に CALL 教室に行って学習する形式をとった。アンケート結果(表6)から、学生一人あたりの語彙学習に使った一週間の平均学習時間は、CALL 教室で50分、CALL 教室以外で45分であった。合計すると1人週平均95分とな

り、予想以上に多くの時間を語彙学習に費やしていることが判明した。この数値は学生が語彙学習の必要性を感じていることの現われであり、同時に CALL を使った語彙学習の有効性を示すものと言えよう。またこの数値は、新入生の週 2 コマ (90分×2) の英語の授業不足分を補うものとして評価できる。中には毎週 3 時間以上も語彙学習に費やしている学生もいて、語彙学習の必要性を特に感じている学生にとっては良い刺激となっていると思われる。

表 6 1 週当りの平均語彙学習時間

CALL 教室で	CALL 教室以外で	合計学習時間
50分	45分	95分

5.4 教育効果

学習状況をモニターするため、学生120人を対象に各課の語彙テストを実施した。テストは英語の授業開始時に毎週 1 課 (単語50、イディオム50) のペースで行なった。表 7 は 1 課から14課までの語彙ソフトの確認テスト (単語15問、イディオム15問) の正答率の平均である。全体の平均は79%であり、学生が積極的に学習に取り組んだ結果が表れていると言える。

表 7 語彙テストの正答率 (N=120)

課	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	平均
正答率(%)	83	74	82	87	75	80	81	78	80	83	75	67	82	74	79

また、新たにイディオムを加えた本語彙システムが学生の英語運用能力の向上にどの程度効果があるか調べるために、総合管理学部の新入生112人を対象に、4月の第2週と、本システムを全て学習し終えた7月の第2週の2回にわたり英語能力テストを行った。効果の測定には、英語運用能力を測定するのに一般に利用されている TOEIC の模擬テスト (Chauncey Group International, 2000) をプリテストとポストテストに使用した。利用したテストは実際の TOEIC の簡略

版で、約3分の1の問題量で構成されている。^{注2}

表8は、両テストの全体の得点、リスニング部門の得点、読解部門の得点の平均値と標準偏差を示したものである。表に見られるように、2回目のテストは1回目のテストに比べ、リスニング部門において37.1点、読解部門において38.0点の上昇を示し、全体の平均では75.2点の上昇であった。t検定の結果、両テストの平均の差は有意であった（両側検定： $t(111) = 6.884, p < .01$ ）。したがって、本語彙システムを使った学習は英語運用能力の向上に効果があると言える。

表8 TOEICのスコア推移 (N=112)

		平均値	標準偏差
TOEIC全体の得点	1回	441.8	100.4
	2回	517.0	115.6
リスニング部門の得点	1回	260.4	65.7
	2回	297.6	69.4
読解部門の得点	1回	181.3	62.6
	2回	219.4	71.9

また語彙学習の結果がリスニング、読解、総合点の成績の伸びとどのような相関にあるかを調べるために、各被験者の14課分の語彙テスト合計と、TOEICの各分野の得点差（上昇値）を比較した。その結果、表9に示されているように語彙テストの成績は読解部門の成績の伸びと強い相関関係にあった。このことから、本教材を使った学習が、語彙・文法部門、及び読解部門の成績の向上にプラスに影響したことがわかる。また語彙テストの結果とTOEIC全体の得点上昇値との間にも相関関係が認められた。このことは、本語彙システムを使った学習に積極的に取り組んだ学生ほどTOEICの成績が向上したことを意味し、本教材の有効性を支持している。

表9 単語テストの成績との相関

		語彙テスト 合計点	TOEIC合計 点の差	リスニング部 門の点数差	読解部門の 点数差
Pearsonの相関係数 (N=112)	語彙テスト合計点	1.000	.215*	.029	.297**
	TOEIC合計点の差	.215*	1.000	.760**	.780**
	リスニング部門の点数差	.029	.760**	1.000	.186*
	読解部門の点数差	.297**	.780**	.186*	1.000

*. 相関係数は5%水準で有意(両側)

** . 相関係数は1%水準で有意(両側)

6. まとめと今後の課題

英語コミュニケーションにおいて、よく日本人は相手を説得させる文章構成力に欠けるとか、自分の意見を人前で発言するのが苦手で議論などにおいてもすぐに黙ってしまうなどと非難されることがある。千田(2002)はインターネット時代における実践的コミュニケーション能力について次の3点をあげている。まず第1にEmailを速読し、即座に返事を書く力、第2に、電話やテレビ会議で使う英語運用力の養成、そして第3にプレゼンテーションにおいて商品・企画・提携案等を提示して説得する力である。またNation(2001)は、コミュニケーションにおいては正確さと流暢さの両者がバランスよく取られることが必要で、そのためには有意義なインプットとアウトプットに連動した語彙・文法項目の重視が必要であると述べている。このように、これからの大学生に求められる能力はインターネット時代に即した発信型コミュニケーション能力である。その際、イディオムの学習は理論的で説得力のある発話や文章を作り出す上で、また自然なテキストを構成する上で重要な学習項目であると言える。

今回コンピュータを使った単語学習ソフトにイディオム部門を追加することで、大学生の不得意とするコミュニケーション上の問題を少しでも解決しようと試みた。結果的に本語彙学習システムは、大学入門期の早い段階でマスターしておくべき基本語(単語700語、イディオム700語、合計1400語)を、短期間に効率よく習得するための有意義な学習形態として、学習者から概ね肯定的に評価されたと判断できる。自習時間の長さを見ても、本システムは学生に強い学習の動機付けを与え、個人個人にあった自学自習環境を提供していると言える。特に、週平均95分という自習時間の長さは、CALLによる学習が平常の授業では不足しがちな語彙指導を十分補ってくれる有効な手段であることを示唆している。

また本語彙システム導入前と後でTOEICの平均点に75.2点の上昇が見られたことから、本教材がTOEICスコアの向上に有効であり、英語コミュニケーション能力の向上に効果的であることがわかった。ただ今回、本教材と学習者の発話能力との関係においては正確には検証できなかった。語彙定着率の追跡調査

やより効果的な語彙リストの作成と合わせて今後の課題としたい。

-
- 注1 特に基本的で学習者にとって不必要だと思われるイディオムは、本学習システムでは敢えて取り扱わなかった。そのイディオムとは、**a variety of, as A as possible, at least, at once, close to, be interested in, be made of, be ready for, by oneself, come from, complain about, in front of, in order to, look for, next to, put up, think of**を指す。これらのイディオムは2回分の TOEIC 試験に実際に現われたが、本語彙システムとの整合性を合わせるためにデータから削除した。
- 注2 模擬テスト（ミニテスト）の問題数は全部で70問（リスニング35問、読解35問）であり、正式の TOEIC の問題数は200問である。正確には3分の1ではないが、合計点を算出する際には計算の煩雑さを避けるため、正答数を単純に3倍して求めた。また読解部門に割り当てた制限時間は、被験者が全ての問題に答えられるよう、4分程度長めに設定して30分とした。その結果、1回目と2回目の模擬テストの平均点は、正式に試験を受けた場合に予想される平均点に比べ若干高めの値になっている。ただし、両テストは全く同じ条件の下で実施された。

参考文献

- Aitchison, J. (1994), *Word in the Mind (Second Edition)*. Oxford: Blackwell.
- Chauncey Group International (2000), 『TOEIC 公式ガイド&問題集』, 財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- Chauncey Group International (2002), 『TOEIC 公式ガイド&問題集 Vol. 2』, 財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 千田 潤一 (2002), 「英語が使える日本人育成プラン発動」『英語教育』 11, pp. 12-13
- Cruse, D. A. (1986), *Lexical Semantics*. Cambridge: Cambridge University press.
- 大学英語教育学会, (2003)
- Goodman, K. A. (1965), "Linguistic study of cues and miscues in reading," *Elementary English*, 42, pp.639-543.
- Halliday, M.A.K. and Hasan, R. (1976), *Cohesion in English*. London: Longman.
- ハリデー, M.A.K. (2001), 『機能文法概説』くろしお出版
- 林 洋和 (2002), 『英語の語彙指導』溪水社.
- 堀内 克明 (2002), 「TPO に適った英語 - 語彙の TPO」『英語教育』 3, 大修館, pp. 22-25.
- Keith, A. (2001), *Natural Language Semantics*. Oxford: Blackwell.
- 村田 年 (2002), 「新指導要領の語彙制限がもたらすもの」『英語教育』 12, 大修館, pp. 20-22.
- Nation, I.S.P. (1993), "Vocabulary size, growth, and use," in R. Schreuder and B. Weltens (eds.), *The Bilingual Lexicon*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. pp. 115-124.
- Nation, I.S.P. (2001), *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 根岸 裕 (2003), 「続大統領の英語教室」『英語教育』 3, pp. 48-49
- Parbakht, T. S. and Wesche, M. (1997), "Vocabulary enhancement activities and reading for meaning in second language vocabulary acquisition," in Coady and Huckin, *Second Language Vocabulary Acquisition*. Cambridge: Cambridge University Press. pp. 175-200
- 進藤 三雄 (2002), 「英語語彙学習のための CALL ソフトウェア開発」『アドミニストレーション』 8, 3/4, 熊本県立大学総合管理学会, pp. 181-200.
- 島本 たい子 (2002), 「なぜ語彙力を増やす必要があるのか」『英語教育』 12, 大修館, pp. 8-10.
- 田島 松二 (1998), 『現代英米語法研究』開文社, pp. 95-107.
- Wilkins, D. A. (1972), *Linguistics in Language Teaching*. London: Edward Arnold.
- Zimmerman, C. B. (1997), "Do reading and interactive vocabulary instruction make a difference? And empirical study," *TESOL Quarterly*, 31, 1, pp. 121-140.

語彙リスト、イディオム700

- a piece of cake
- above all
- accord with
- according to
- account for
- account for
- after all
- agree with
- ahead of time
- aim at
- all at once
- all of a sudden
- all the same
- all the way
- along with
- amount to
- an answer to
- anything but
- apart from
- apply to
- approve of
- as a matter of fact
- as a result
- as a rule
- as a whole
- as far as A is concerned
- as for
- as is often the case with
- as long as S V
- as of A
- as regards
- as soon as
- as to
- as usual
- aside from
- ask a favor of
- ask for
- ask for
- assert oneself
- assuming that
- at a distance
- at any cost
- at any rate
- at first sight
- at hand
- at heart
- at last
- at once
- at one time
- at one's disposal
- at one's risk
- at present
- at random
- at the age of A
- at the cost of
- at the expense of
- at the mercy of
- at the moment
- at the present stage/time
- at the risk of
- at this rate
- at times
- at your earliest convenience
- attribute A to B
- be about to do
- be absorbed in
- be accustomed to
- be acquainted with
- be angry about
- be anxious about
- be anxious for
- be appropriate for
- be as follows
- be ashamed of
- be associated with
- be at a loss
- be at home in
- be at large
- be at stake
- be at work
- be aware of
- be based on
- be beside the point
- be beyond description
- be booked up
- be bound for
- be capable of
- be caught in a shower
- be characteristic of
- be concerned about
- be concerned with
- be connected with
- be conscious of
- be consistent with
- be content with
- be contradictory to A
- be crazy about
- be curious about
- be cut out for
- be dependent on
- be distinguished from
- be due to
- be engaged in
- be envious of
- be equal to
- be equipped with
- be essential to
- be familiar with
- be fed up with
- be free from
- be free of
- be grateful for
- be ignorant of
- be impatient with
- be in business
- be in charge of
- be in danger of
- be in demand
- be in progress
- be in the affirmative
- be in the course of
- be in the red
- be in the wrong order
- be in time for
- be inconsistent with
- be independent of
- be indifferent to
- be indispensable to
- be involved in
- be keen on/about
- be known for
- be known to
- be married to
- be mixed up
- be obliged to A for B
- be on a diet
- be on board
- be on good terms with
- be on the decrease
- be on the increase
- be on the point of doing
- be out of order
- be out of the question
- be peculiar to
- be peculiar to
- be pleased with
- be popular among
- be possessed of
- be qualified for
- be reconciled with
- be related to
- be responsible for
- be rich in
- be run over by
- be satisfied with
- be sensitive to
- be short of
- be sick of
- be similar to
- be subject to
- be suitable for
- be superior to
- be sure of
- be the same as
- be through with
- be tired of
- be tolerant of
- be under way
- be up to
- be upside down
- be used to doing
- be worn out
- be worried about

- be worthy of
- be yet to do
- bear A in mind
- beat around the bush
- before long
- begin with
- behind the times
- between ourselves
- blame A for B
- boast of
- break down
- break in
- break into tears
- break out
- bring about
- brush up
- but for
- by nature
- by accident
- by all means
- by and large
- by chance
- by degrees
- by means of
- by mistake
- by name
- by no means
- by the way
- by turns
- by way of
- call for
- call off
- call on
- calm down
- cannot help doing
- can't afford to do
- care about
- care for
- carry on
- carry out
- catch up with
- change for the better
- clip out
- collide with
- come across
- come of age
- come off
- come out
- come up with
- comment on
- compete with
- congratulate A on
- consist in
- consist of
- contrary to
- contrast with
- contribute to
- cope with
- correspond to
- correspond with
- count on/upon
- cover up
- cross out
- cut corners
- cut off
- date back to
- day after day
- deal in
- deal with
- depend on
- deprive A of B
- die hard
- differ from
- disagree with
- dispense with
- dispose of
- distinguish A from B
- do away with
- drop A a line
- drop in on
- due to
- eat out
- end by
- ever since
- every other day
- except for
- except that S V
- exchange A for B
- excuse A for B
- face up to
- fall behind
- fall off
- fall out
- fall over
- feel one's way to
- figure out
- fill in
- fill out
- fill up
- find fault with
- first of all
- focus on
- follow suit
- fool around
- foot the bill
- for a change
- for certain
- for fear of doing
- for good
- for instance
- for lack of
- for nothing
- for short
- for the purpose of doing
- for the sake of
- for the time being
- for want of
- for your information
- frankly speaking
- free of charge
- from my personal point of view
- from now on
- from scratch
- from time to time
- generally speaking
- get A across
- get along
- get along with
- get down to
- get in touch with
- get into trouble
- get on one's nerves
- get over
- get rid of
- get through with
- give a call
- give a lecture on
- give a ride
- give an explanation of
- give birth to
- give in
- give it a second thought
- give it a try
- give off
- give up doing
- go for a walk
- go into details
- go off
- go over
- go through
- go with
- granted that S V
- hand down
- hand in
- hand out
- hang on
- hang up
- have a good command of
- have a hard time doing
- have a look at
- have a rain check
- have access to
- have an advantage over
- have an eye for
- have an influence on
- have no choice but to do
- have nothing to do with
- have only to do
- have to do with
- hear from
- hit on/upon
- hold on
- if anything
- impinge on/upon
- in a hurry
- in a nutshell
- in a sense
- in a way
- in accordance with
- in addition to
- in advance
- in all
- in all respects
- in case S V
- in charge of
- in common

- in conjunction with
- in contrast
- in danger of
- in detail
- in due course
- in every respect
- in exchange for
- in favor of
- in general
- in honor of
- in line with
- in no time
- in one's absence
- in one's childhood
- in one's way
- in other words
- in particular
- in person
- in place
- in place of
- in practice
- in private
- in public
- in question
- in respect of
- in response to
- in return for
- in short
- in succession
- in sum
- in summary
- in terms of
- in that S V
- in the case of
- in the end
- in the face of
- in the light of
- in the long run
- in the name of
- in the same way as
- in token of
- in turn
- in vain
- in view of
- inform A of B
- inquire into
- insist on/upon doing
- instead of doing
- interfere in
- it's on me
- judging from
- just in case
- keep an eye on
- keep away from
- keep company with
- keep early hours
- keep in touch with
- keep on doing
- keep one's fingers crossed
- keep one's word
- keep up with
- kick the habit of
- lay off
- lead to
- lean against
- learn A by heart
- leave A behind
- leave A to B
- leave out
- let A down
- let alone
- let go of
- let off steam
- level off
- little by little
- live from hand to mouth
- long for
- look after
- look down on
- look forward to
- look into
- look over
- look up to
- lose one's temper
- lose sight of
- major in
- make a face
- make a fool of
- make a move
- make a phone call to
- make a point of doing
- make a reservation
- make a scene
- make arrangements for
- make believe S V
- make both ends meet
- make for
- make friends with
- make fun of
- make it
- make it a rule to do
- make light of
- make much of
- make oneself understood
- make out
- make room for
- make sense
- make the most of
- make up for
- make up one's mind
- make use of
- may as well do
- meet the deadline
- mess up
- more or less
- move in
- move on to
- move out
- needless to say
- never fail to do
- not necessarily
- not to mention
- not to say
- nothing but
- object to
- off the record
- on and off
- on and on
- on another occasion
- on another opportunity
- on average
- on behalf of
- on condition that S V
- on earth
- on leave
- on occasion
- on one's own
- on one's way to
- on purpose
- on schedule
- on second thought
- on the air
- on the contrary
- on the ground that S V
- on the hypothesis that
- on the other hand
- on the spot
- on the whole
- on time
- once in a while
- one after another
- out of the blue
- over and over again
- owing to
- pack in
- pack up
- participate in
- pass away
- pass on
- pass out
- pay attention to
- pay down on
- pay one's respect to
- persist in
- persuade A into doing
- persuade A into doing
- pick on
- pick up
- pick up one's ears
- place an order
- play an important role in
- point out
- pop up
- preside over
- prevent A from doing
- previous to
- prior to
- proceed to
- prohibit A from doing
- provide A with

- provided that S V
- pull a long face
- pull one's leg
- pull over
- pull strings
- put A into practice
- put A together
- put aside
- put away
- put emphasis on
- put off
- put on
- put on airs
- put out
- put through
- put up a front
- put up with
- quite a few
- recover from
- refer to
- refrain from doing
- regardless of
- rely on
- remind A of B
- reply to
- result in
- rip off
- rise to one's feet
- rob A of B
- run across
- run away with
- run out of
- run short of
- run the risk of doing
- scold A for B
- see off
- see through
- see to it that S V
- send for
- set in
- set up
- settle down
- shake hands with
- show around
- show off
- show up
- show what one is made of
- sit back
- sit up late at night
- skip over
- sleep out
- so far
- so to speak
- sooner or later
- speak ill of
- Speaking of
- spell out
- stand by
- stand for
- stand in line
- start with
- stay away from
- stick to
- strange to say
- substitute A for B
- succeed to
- sum up the major point of
- supply A with B
- sympathize with
- take A for B
- take A for granted
- take A into account
- take A into consideration
- take account of
- take advantage of
- take away
- take care of
- take effect
- take it for granted that S V
- take notice that S V
- take off
- take one's time
- take over
- take part in
- take place
- take pride in
- take turns doing
- take up
- talk A into B
- tear apart
- tell A from B
- thanks to
- that is
- the bulb is burnt out
- the number of
- the other way around
- the problem lies in
- the time is up
- think much of
- think over
- think twice
- throw away
- throw up
- to begin with
- to one's heart content
- to one's surprise
- to some extent
- to such an extent that S V
- to tell the truth
- to the extent that S V
- trade in
- try on
- try out
- tune in
- turn A into B
- turn down
- turn in
- turn inside out
- turn into
- turn off
- turn on
- turn out
- turn out to be A
- turn over
- turn up
- turn upside down
- under control
- up to now
- upside down
- watch out for
- weather permitting
- When it comes to
- with difficulty
- with ease
- with no strings attached
- with regard to
- with respect to
- without fail
- without mentioning
- without reservations
- work for
- work overtime
- write down
- X minutes behind schedule